

伏見の「みなと」を 中心とした まちづくりビジョン



伏見は、豊臣秀吉の伏見港開港以来、昭和前半まで京都と大阪を結ぶ水運の要衝として発展してきた港町であり、現在も全国唯一の「川のみなと」（内陸河川港）として十石舟・三十石船が運航されています。

令和3年4月に伏見港が国土交通省の「みなとオアシス」に登録されたことを踏まえ、「川のみなとオアシス 水のまち 京都・伏見」運営・まちづくり協議会では、伏見の「みなと」を中心としたまちづくりビジョンをまとめました。

みんなでつくろう 伏見みなとまち

～水と歴史を活かした「みなと暮らし」を楽しめるまちづくり～

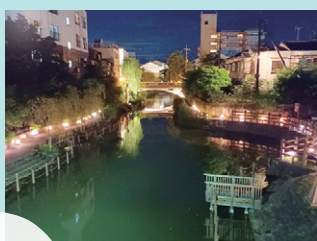


- オール伏見（区民、民間、団体、行政）の連携で生み出すまちづくり
- 伏見ならではの歴史や魅力を活かした持続可能な賑わいづくり
- 伏見港やみなとオアシスの魅力を十分に発信できる空間づくり

「みなと暮らし」 のイメージ



水辺に出かけて自然
や景観、季節行事を
楽しむ（花見・花火・
月見・紅葉・夜の
灯りなど）



水辺のカフェで十石
舟等を眺めながら、
伏見のお酒や料理
等を楽しむ

水辺でマルシェ等の
イベントが行われて
いて、人に出会い、
伏見の魅力や楽し
みに出会える



週末は子どもを連れて水辺のアクティビティ
やアウトドアイベントを楽しむ

方針

誰もが楽しめる安心安全な水辺空間づくり

1

日常の憩いの場や、時にはイベントの場として、誰もが安心安全に利用できる空間をつくります。

- ・ 伏見みなと公園広場など、ふしみなーとエリアを滞在しながら楽しめる空間に整備
- ・ 施設の老朽化対策の実施
- ・ バリアフリー化や園路の改良、防災機能整備の検討
- ・ 川を安全に利用するためのルールづくり
- ・ 十石舟関連施設のリニューアル
- ・ 宇治川への船着場設置に向けた連携

方針

伏見の水と歴史を生かした賑わいと暮らしの創出

2

港町、歴史など伏見の多様な魅力をアピールできる、賑わいの場をつくります。

- ・ 伏見みなと公園広場など、ふしみなーとエリアにおける新たな賑わい創出（利活用のルールづくりやマネジメントの向上）
- ・ 歴史ある町並みと水辺を活かした夜間も併せての景観づくり
- ・ 水辺を活かしたアクティビティの創出
- ・ 暮らしの中で水辺・文化を楽しむ機会の創出
- ・ 淀川舟運プロジェクトとの連携
- ・ 三栖閘門の利活用に向けた連携

方針

まちの回遊性向上と伏見らしい魅力・体験の創出

3

水辺とまちの回遊性を向上させ、港町ならではのイベントや体験の創出、魅力の更なる情報発信を行います。

- ・ 回遊を促すサインや仕組み等の整備
- ・ 伏見の名所を巡り歴史や食などの文化を知る機会の拡大
- ・ 特産品販売や体験イベント等による地域と観光客の交流拡大
- ・ SNSなどを活かした情報発信力の強化

十石舟や三栖閘門
などで港の雰囲気
を味わい、港町の歴
史に思いをはせる



趣味の活動や市民
活動、起業を目指す
人たちが、広場でチャ
レンジし、成長する



水辺の景色を楽しみながら散歩し、広場
でゆったりとくつろいだ時間を過ごす

中書島駅で下車し
（三栖閘門付近に
船で到着し）、水辺と
まちを回遊しながら
買い物や食事、体験、
観光を楽しむ



エリア別のまちづくりのイメージ

- 4つのエリアを設定し、各エリアが連携することで、楽しく回遊できるまちづくりを推進します。
- さらなる“伏見ファン”獲得を目指し、「2025年大阪・関西万博」を見据えた新たな観光需要も取り込んだまちづくりを官民一体で推進します。

派流沿いエリア

水辺景観を安全に楽しみながら十石舟や徒歩で移動でき、各エリアにつながる空間

<取組例>

- ◆十石舟、三十石船乗船場の移設、リニューアルを見据えた整備
- ◆親水空間の整備、水辺景観の向上、サイン整備
- ◆橋梁や園路の補修・整備



園路拡幅



橋梁補修



にぎわいエリア

伏見の歴史・文化・食などの魅力と出会い、体験できるエリア

<取組例>

- ◆特産品販売、体験イベントの開催



桜祭り



伏見夢百衆

駅前エリア

中書島駅を来訪者の玄関口として、各エリアに円滑に誘導できる回遊の拠点

<取組例>

- ◆誘導性、観光情報発信機能等の強化



デジタルサイネージ



シンボリックデザイン

ふしみなーとエリア

中書島駅、宇治川に隣接する立地を活かした、誰もが楽しめる居心地の良い親水空間

<取組例>

- ◆民間事業者と連携した広場づくり
- ◆伏見港公園や三栖閣門等の周辺施設と連携した利活用や空間整備
- ◆淀川舟運プロジェクトと連携した誘客



デッキの設置



水上アクティビティ

淀川舟運プロジェクト

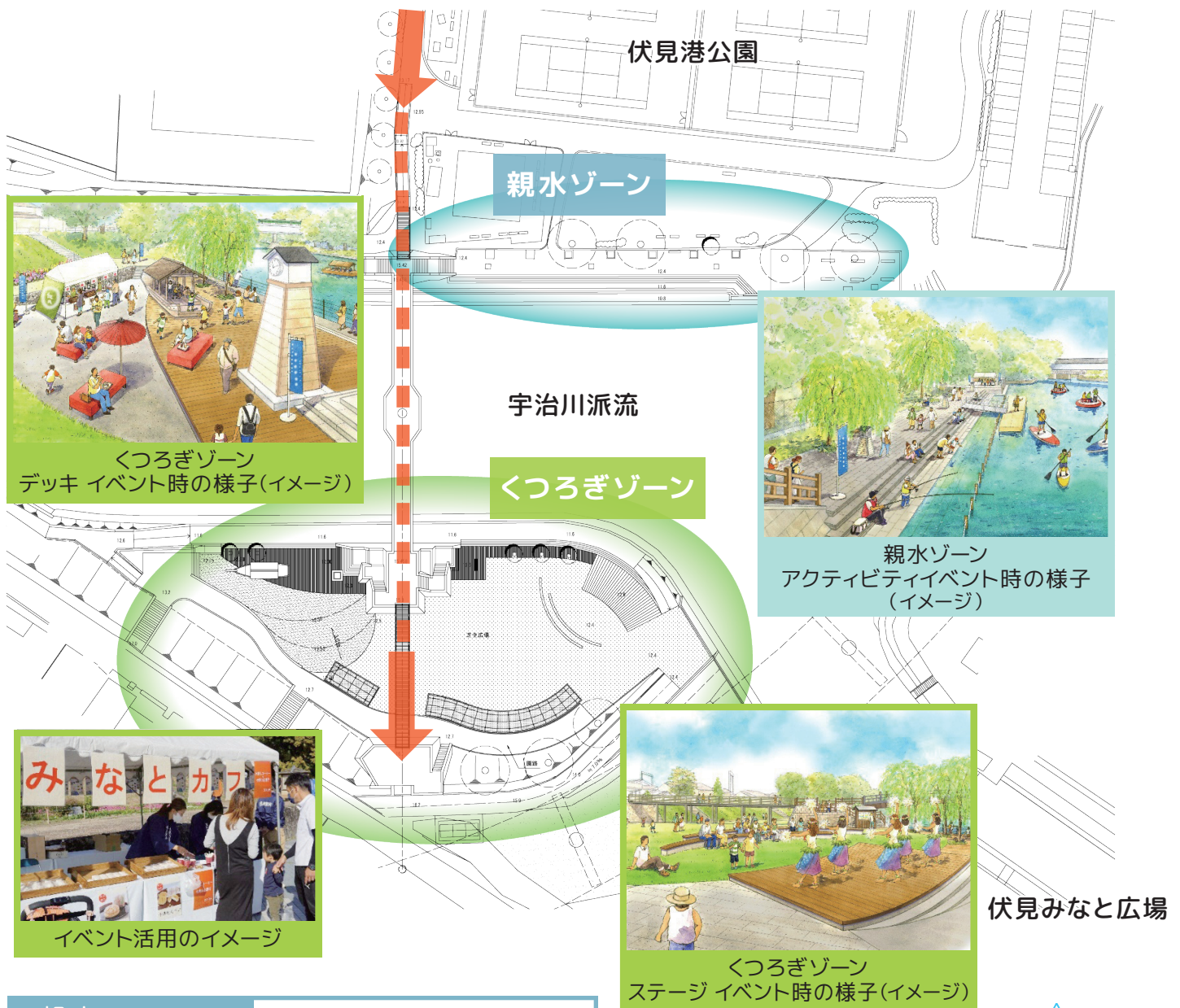
*  人の流れ

*写真はイメージ

- 全体に係る取組：サイン整備によるエリア間の回遊の促進、SNS等による情報発信機能の強化
- 具体的な整備内容、運用などは周辺の住環境に配慮したうえで、各施設の管理者において検討

伏見みなと公園広場の整備イメージ

伏見みなと公園広場を2つに分け、港を感じる『親水ゾーン』と親しみを感じる『くつろぎゾーン』を創出



親水ゾーン

- ◆水上アクティビティなどの水辺に親しむ活動の拠点となる広場

くつろぎゾーン

- ◆日常的に誰もが快適に過ごせる広場やデッキ等を整備するとともに、イベントやカフェなど多様な利用が可能となる空間を創出
※イベント等で活用できる電気等のインフラ整備

- ◆メイン動線のバリアフリー化を図り、全体的に回遊可能な空間整備

「ふしみなーと」

伏見港公園(都市公園)

伏見みなと公園広場(港湾緑地)

伏見みなと広場(国所管河川緑地)

からなるエリアの愛称が決定!!

今後も一体的に利活用できるよう連携を図ります。

まちづくりビジョンの推進体制

ビジョンの推進に当たっては、地域、団体、事業者、行政等で構成する「川のみなとオアシス 水のまち 京都・伏見」運営・まちづくり協議会を中心に取組を進めていきます。

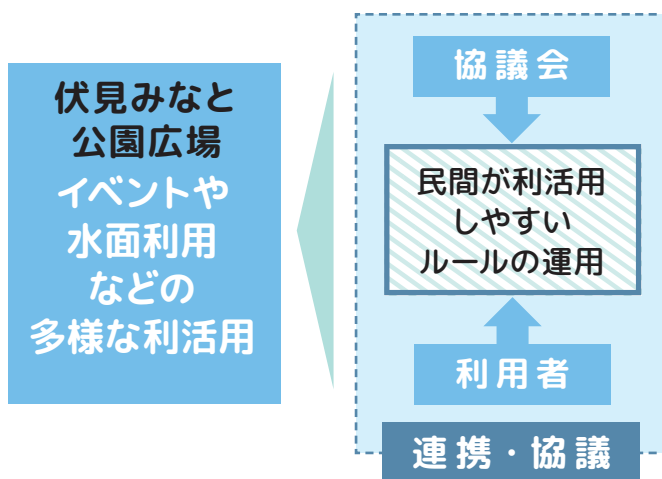
さらに、伏見港パートナー制度等による民間中心の主体的活動の支援、担い手のネットワーク形成を行い、ビジョンに掲げる内容の具体化を図っていきます。

利活用を進めるための仕組みづくりと主体への支援・ネットワーク化

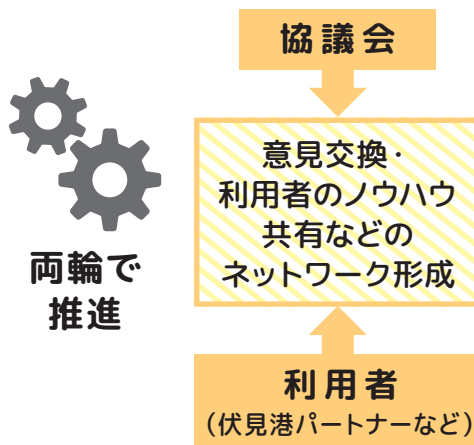
貴重な水辺空間である「伏見みなと公園広場」について、憩いと賑わいの場として多様な利活用がされるよう、民間事業者も含めた利活用を促進するルールづくりやマネジメントの向上を図ります。

また、広場をはじめとした様々な場所でイベントや活動を展開する主体を支援するとともに、主体間でのコラボレーションやノウハウ共有などが促進されるネットワーク形成を図ります。

利活用を進めるための仕組みづくり



主体への支援・ネットワーク化



伏見港パートナー制度について

伏見港の「みなとオアシス」登録を契機とする持続可能な賑わいづくりに向け、主体的に行動する、また、応援する企業、団体、個人の方に登録いただく制度です。

登録いただくと、メーリングリストや交流会等を通じて事務局やパートナー同士で情報共有を図ることができるとともに、伏見港ロゴマークの使用も可能となります。

詳細はこちら



伏見港ロゴマーク

イラストレーターながたみどり氏にデザインしていただいた飾り文字。みなとまち伏見を象徴する川、十石舟、酒蔵、三栖閘門などで「伏見港」の文字が形作られています。



お問合せ先 協議会事務局

京都市伏見区役所地域力推進室
京都府商工労働観光部・建設交通部 港湾局

TEL：075-611-1295
TEL：0773-75-0192(代)

「川のみなとオアシス 水のまち 京都・伏見」運営・まちづくり協議会

伏見区市政協力委員連絡協議会、NPO 法人伏見観光協会、伏見酒造組合、伏見桃山がんばる7商店街、洛南保勝会、京阪ホールディングス株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、月桂冠株式会社、黄桜株式会社、公益社団法人京都市観光協会、京都府(港湾局、都市計画課、京都土木事務所)、京都市(伏見区役所、観光 MICE 推進室)

令和4年9月策定